

【②見方—B:授業をつくる教師の視点】

■あなたに伝えたい「ありがとう」 OPEN THE BOX！

●私を支えてくれているもの、かけがえのないものとは？

最高学年として今、自分たちが輝き、活躍できるのは、支えてくれている存在があるからということ意識してほしいと思った。そこで、まず自分自身を見つめ直し、「自分を支えてくれるもの」「自分にとってかけがえのないもの」を考えることから始めた。

●アイデアを形に～造形ノート・教師との対話

本題材では「支えてくれる人、もの」「かけがえのないもの」に「ありがとう」を伝えるために、発想を広げ、表し方を工夫し、造形的な力を高められるようにした。まず、「ありがとう」を伝える相手をしっかりと意識し、「どのような形や色、動きや奥行きなどで表したいか」を考えた。イメージを深めていくには、造形ノートが有効だと思う。また、ノートに描かれたイメージをもとに、教師と「どんな入れ物がいいか」「どんな材料が必要か？」など、対話を繰り返す。こうしたやりとりの中で、ぼんやりとしたイメージが明確になり、自信をもって表現できるようになっていった。

●材料が勝負！？

6年生にもなると、教師の提示や教科書の例から題材の内容をつかめば、自分のイメージをもとに、材料を集めたり、表現の方法を考えたりして、表現の見通しをもつことができるようになる。しかし、子どもは実際に制作する中で、よりよい表し方を探り、さらなる工夫を行っていく。すると、「もっと、こんなものがほしい」「こんな質感のものがあったら」などのつぶやきが聞こえてくる。そこで教師の出番である。友達同士で材料交換できるように声をかけたり、教師があらかじめ準備しておいた材料を提示したりする。子どもの表現活動が豊かになるように、十分に用意し、タイミングよく提示することが大切である。



●箱の中に広がる「わたしの世界」

～開ける楽しみがそこにある！！～

箱を利用する面白さとは、それを開けたときに味わう「驚き」や「感動」にあると思う。開けてびっくりをねらって、次第に、子どもたちは中に入れる物をつくることから、箱そのものに工夫を行うようになる。考えを広げた子は、自分の箱を切ったり、つなげたりなどの加工をしていた。そして、できあがった作品を展示するときには、全員が箱のふたを閉めていた。友達作品を見るときには、「開けたらどうなるのかな・・・」とワクワクしながら鑑賞していた。「ありがとう」を伝えたい相手と、その思いにあった形や色での表し方の工夫は、一人ひとりのその子らしさがあらわれるものになる。



(神奈川県横浜市立西寺尾小学校教諭)